

自治会行事の再開に向けた ガイドライン (新型コロナウイルス感染症対策)

このガイドラインは、自治会(町内会)が行う地域活動について、新型コロナウイルスへの感染防止策を講じたうえで、再開していくための参考として、コミュニティセンターにおける対応を紹介するとともに、感染症対策チェックリストをお示しするものです。

引き続き、地域における感染防止にご理解、ご協力よろしくお願いたします。

令和3年(2021) **4月1日改定**

出雲市総合政策部自治振興課

1 自治会行事の再開に向けて

- 地域においては、新型コロナウイルス感染拡大防止や感染への不安から、自治会（町内会）が行う行事の多くが、中止や延期されています。
- これからは、「新しい生活様式」を心掛けた「感染防止策」を講じたうえで、地域活動を徐々に再開し、日常を取り戻していくことが求められています。
- 別添のチェックリストにより、皆さんで「感染防止策」を確認してください。
- なお、感染症はまだ収束したわけではなく、誰もが感染への不安を抱えています。不安を感じる方は行事を欠席できるよう、ご配慮願います。
また、感染症は誰もがかかりうるものです。誤解や偏見などに惑わされることのないよう、市や県からの情報に基づき、冷静な行動をお願いします。

2 行事開催の判断の目安

コミュニティセンターでは、次のことを目安に行事開催を判断しています。
各自治会の参考としていただくため、情報提供します。（一部抜粋）

1 コミュニティセンターが主催する活動や会議

(1) 活動全般に共通する対応

- 広く県外からも参加が見込まれる活動や、参加者が1,000人を超えるようなものは、感染防止対策等について県に事前相談します（自治振興課へ連絡）。
- 地区内、市内から参加する活動は、屋内外を問わず、大声での歓声・声援等が想定されるかにより区分し、適切な「感染防止策」を講じられるものを開催します。

大声での歓声・声援等が想定されるもの

- ・ 収容率50%以内。
- ・ 席がない場合は、十分な間隔（2m以上、最低でも1m）
（同一の観客グループ（5名以内）は、座席を空けないことも可）

大声での歓声・声援等が想定されないもの

- ・ 収容率100%以内。
- ・ 席がない場合は、適切な間隔（最低限、人と人とが接触しない程度の間隔）

《感染防止策》

- ① 3つの密（密閉、密集、密接）の発生が原則想定されないこと（人と人との間隔はできるだけ2mを確保）
密閉空間であり換気が悪い **近距離での会話や発声がある**
手の届く距離に多くの人がいる
- ② 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインに沿った対策を講じること
※ 次項の「リスクが考えられる活動への追加の対応」参照
- ③ 必要に応じて、入退場時の制限や誘導、待合場所等の密集回避、マスクの着用、室内の換気等を実施すること
- ④ 感染リスクが高まる「5つの場面」別添1を回避、又はこうした場面での一層の対策徹底を図ること

(2) リスクが考えられる活動への追加の対応

場所	コミュニティセンターの対応
屋内	<p>① 文化祭等は、ピーク時でも人と人との距離を確保できる来場者数に留めることができるかを検討します。 ステージイベントは、発表者と観客との距離（少なくとも2m以上）を確保し、入退場時や休憩時間も観客と観客との距離を確保するよう誘導します。観客を限定して案内したり、先着順として集中を避けます。 コーラス等のリハーサルは、可能であればマスクを付け、人との間隔を空け、人がいる方向に口を向けずに、短時間で換気しながら行います。</p>
	<p>② 調理は、器具を消毒して準備するとともに、食中毒にも配慮した都度の手洗い、調理中の飛沫防止（マスクの着用、最小限の会話）を徹底したうえで、長時間密接状態で行う作業を避けて行います。 会食は個々に配膳し、対面を避け、静かに、短時間で食べ終わります。 （「感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫」別添2参照） イベント時の飲食は、原則、飲食用に感染防止を図ったエリアで行います。</p>
	<p>③ 運動を伴う活動（健康体操、踊り、ダンスなど）は、2m以上の十分な距離をとることができる少人数に制限します。呼吸のしにくさや熱中症予防にも配慮して、運動中や直後は、十分な距離をとったうえで適宜マスクをはずします。複数の人が触れる器具は、使用前に消毒します。</p>
	<p>④ 講演会は、比較的静かな座学形式であれば、収容定員までの人数を集めて実施可能です。入退場時の距離の確保や、休憩時間の回数を増すなどトイレの混雑を避ける工夫が必要です。</p>
	<p>⑤ 高齢者や持病のある方は、重症化のリスクが高いと言われています。 敬老会等は、マスクの着用や換気などでき得る対応を行ったうえで、短時間の中で交流等が行えるよう工夫して実施します。</p>
	<p>⑥ 囲碁、将棋、健康マージャンなどは、正面での接近が避けられませんが、マスクを着用して、できる限り静かに行って飛沫防止に留意するとともに、開始前の手洗い、用具の消毒、定期的な換気に努めて実施します。</p>
屋内	<p>⑦ 清掃・除草活動は、作業中は安全にも配慮した十分な距離をとったうえで、適宜マスクをはずして実施します。溝のフタ上げなど作業者の顔が対面で接近する作業では、マスクやフェイスガードを付けることが望ましいですが、熱中症にも十分に配慮し、装着時は休憩の時間や頻度を増やします。</p>
	<p>⑧ 運動会などは、選手が密接する種目を避け、運動中はマスクをはずして実施します。応援テント内を含め、呼吸が激しい人や、大声を出す人が密接しないよう、距離の確保を呼び掛けます。</p>
外	<p>⑨ 地区の祭り等は、ピーク時でも人との距離を確保できる来場者数に留めることができるか、県外からも広く来場が見込まれないかを過去の実績を踏まえて判断します。順番待ちの列を、距離をとって整理できるかも考慮します。</p>
	<p>⑩ バスによる移動は、バス運行会社が実施する感染防止策に従います（子どものみ乗車の場合の窓開放禁止等に注意）。また、休憩場所や行き先でも「感染防止策」を徹底します。</p>

【地域活動を始める前に】

新型コロナウイルス感染症対策チェックリスト

(令和3年4月1日版)

- 活動を始める前に参加者全員で各チェック項目を確認しましょう。
(このチェックリストと参加者名簿は、1 か月間は保管しておきましょう。)

感 染 症 対 策		チェック欄
行事の開催周知	広く県外から参加が見込まれたり、参加者が1,000人を超えるものではない。(該当の場合、県に事前相談済である。)	
	人と人との距離を常に十分確保できる参加人数に制限できる。 <input type="checkbox"/> 大声での歓声・声援等が想定される場合は、 収容定員の50%又は十分な間隔(2m以上、最低でも1m。) (同一の観客グループ(5名以内)は、座席を空けないことも可) <input type="checkbox"/> 想定されない場合は、 収容定員以内又は適切な間隔(最低限、人と人が接触しない程度)	
感染対策の基本	発熱や風邪、味覚障害の症状がみられる参加者はいない。	
	全員マスクを着用している。(忘れた人の対応を事前相談しておく。) ・熱中症や息苦しさなどに気をつけ、人との距離がとれる所では、 はずして休憩したり、着けずに運動や作業をする。	
	咳エチケット(マスクを外した場面では、ティッシュ、ハンカチ、袖で口、鼻をおおう)を確認し、参加者にも周知した。	
	活動前に手洗い、または手指の消毒を行った。	
三密(密集・密接・密閉)の回避	人との距離を離すように椅子等を配置したり、誘導表示した。	
	こまめに換気することを声掛けした。 ・30分におきに数分(エアコン使用時も)、2方向の窓を全開に。	
	近距離での会話や、対面で大声を出さないよう声掛けした。	
	飲食を伴う活動の場合は、 <input type="checkbox"/> 手洗いの徹底 <input type="checkbox"/> 対面を避け、会話を控える。 <input type="checkbox"/> 大皿から取って食べる食事提供は控える。(個別に盛り付ける) <input type="checkbox"/> できるだけ短時間で食べ終わる。	
	運動や作業を行う場合は、 <input type="checkbox"/> 2m以上の十分な距離をとる。 <input type="checkbox"/> 運動中や直後は十分な距離をとったうえで適宜マスクを外す。	
その他	当日の参加者名簿を作成する。 <input type="checkbox"/> 感染が確認された場合、参加者に連絡できるよう1か月は保管する。 <input type="checkbox"/> 接触確認アプリ「COCOA」を積極的に活用する。	
	鼻水や咳、くしゃみを処理したごみは、 <input type="checkbox"/> 各自でビニール袋に密封して、ゴミ箱に廃棄する。 <input type="checkbox"/> ゴミ箱のごみは、マスクや手袋を着用して処分し、処分後は石鹸 でていねいに手を洗う。	

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のほしご酒では、短時間の食事と比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクログ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カフェなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることがある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫

別添2

<利用者>

- ・飲酒をするのであれば、①少人数・短時間で、
 - ②なるべく普段一緒にいる人と、
 - ③深酒・はしご酒などはひかえ、適度な酒量で。
- ・箸やコップは使い回わず、一人ひとりで。
- ・座の配置は斜め向かいに。（正面や真横はなるべく避ける）
（食事の際に、正面や真横に座った場合には感染したが、斜め向かいに座った場合には感染しなかった報告事例あり。）
- ・会話する時はなるべくマスク着用。（フェイスシールド・マウスシールド※1はマスクに比べ効果が弱いことに留意が必要※2。）
 - ※1 フェイスシールドはもともマスクと併用し眼からの飛沫感染防止のため、マウスシールドはこれまで一部産業界から使われてきたものである。
 - ※2 新型コロナウイルス感染防止効果については、今後さらなるエビデンスの蓄積が必要。
- ・換気が適切になされているなどの工夫をしている、ガイドライン★を遵守したお店で。
- ・体調が悪い人は参加しない。

<お店>

- ・お店はガイドライン★の遵守を。

（例えば、従業員の体調管理やマスク着用、席ごとのアクリル板の効果的な設置、換気と組み合わせた適切な扇風機の利用などの工夫も。）

- ・利用者へ上記の留意事項の遵守や、

接触確認アプリ（COCOA）のダウンロードを働きかける。

【飲酒の場面も含め、全ての場面でこれからも引き続き守ってほしいこと】

- ・基本はマスク着用や三密回避。室内では換気を良くして。
- ・集まりは、少人数・短時間にして。
- ・大声を出さず会話はできるだけ静かに。
- ・共用施設の清掃・消毒、手洗い・アルコール消毒の徹底を。

★従業員で感染者が出たある飲食店では、ガイドラインを遵守しており、窓を開けるなど換気もされ、客同士の間隔も一定開けられていたことから、利用客（100名超）からの感染者は出なかった。